

国語 第2学年 カンジーはかせの大はつめい 検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：漢字の形・読み・意味を手掛かりに、言葉を推測した理由を説明する。教科書固有の暗号や問題は再掲せず、既習漢字から独自の課題を作る。B(1)エの学習として、手掛かり、選んだ字、その字を使う自作文と、選んだ理由。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、文章を読み返し、選んだ漢字が内容に合うかを確かめて表現を直しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。B(1)エの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：手掛かり、選んだ字、その字を使う自作文と、選んだ理由を残す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、B(1)エに関わる学習の中身を確かめる。

指摘 4：つまり児童にはどんな支援をするか。

返し：答えだけを言って根拠がない、漢字に存在しない形を正しい字として示す。これに対して、正しい字形のカードを使い、手掛かりにする部分を囲む。独自例では既習の漢字を読みや部品で並べ替え、最後は実在する語かと文中の意味を辞書で確かめる。〔知識及び技能〕(1)エとB(1)エを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「その漢字だと思ったのは、形・読み・意味のどの手掛かりですか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、B(1)エに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：手掛かり、選んだ字、その字を使う自作文と、選んだ理由は紙に記録できる。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をB(1)エの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。B(1)エで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：この教材で、練習と使えるようになった姿をどう分けるか。

返し：正しい字形のカードを使い、手掛かりにする部分を囲む。独自例では既習の漢字を読みや部品で並べ替え、最後は実在する語かと文中の意味を辞書で確かめる。完成品だけでなく、手掛かり、選んだ字、その字を使う自作文と、選んだ理由。を見て、確かめ方と変えた理由を判断する。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「その漢字だと考えたのは、形・読み・意味のどの手掛かりですか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。B(1)エに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

